



Chapter1

自分について話す



Section1 : 自分の国や町について説明できる

◆チャレンジ

◇個人またはペアで問題を解かせ、答え合わせをします。学生に答えさせても、教師が答えても構いません。時間があれば、それぞれの観光地について教師がコメントしたり、画像を見せたり、あるいは学生にコメントさせたりすると、学生のモチベーションが高まります。

◇ペアやクラスメートの前で簡単に自己紹介させます。その際に自分の出身地の有名なものや面白いものを紹介するように指示します。自己紹介の際、出身地の特色も一緒に述べると印象に残ることをコメントすると、この Section の学習目的が明確になります。

◆会話

場面：大学の留学生歓迎パーティー スピーチスタイル：丁寧体→普通体 活動：自己紹介
登場人物：トーニョ（メキシコ出身）みどり（栃木県日光市出身）

大学の留学生歓迎パーティーでメキシコ出身のトーニョと日光出身のみどりが自己紹介をする場面です。トーニョはいわゆる「日本オタク」で日本のことに詳しく、みどりの出身地の日光東照宮に関して様々な知識を披露します。初対面ということで最初は「丁寧体」で話していましたが、話が弾んで「普通体」で話し始めます。トーニョ自身の出身地はメキシコのソチミルコで、そこで有名な「トラヒネラ」を紹介して、自分の町をアピールします。学習者がイメージしやすいように東照宮、ソチミルコ、トラヒネラの画像を提示したり、スマホなどで確認させたりします。

◆Pick Up

この Chapter は、相手に新情報を伝える表現や情報を確認する表現を取り扱っています。



【各表現の注意点や指導のヒント】

①日光っていう町です。

理解しているか確認するために、ペアで A「出身はどこですか。」 B「～っていう町です。」とやりとりさせたり、町の他にも、「～っていう人です／～っていう料理です」などを使ってQ&Aをさせます。聞き手が知らないことが前提であるということに気をつけてさせてください。「～っていう」は「～って」で言い換えられることがあり、よりくだけた感じになります。

②日光といえば、東照宮という神社で有名な町ですよ。

発音の際に「～よね」の意味とイントネーションに注意を払わせます。「よ」で下がって「ね」で上がれば、「そうですね？」という意味になります。理解したか確認するために、「日本料理と言えば？→おすしです」「有名な日本人と言えば？→村上春樹／黒澤監督」のような簡単なやり取りをしたり、例文に合わせた形で「日本料理と言えば、おすしが有名ですよ。」など、口頭で簡単に練習します。日光の場所や東照宮の写真を準備しておく、学生の理解を深めるのに役立ちます。

③1617年だったっけ？

質問と自問のイントネーションの違いに気をつけて練習させます。一般的に自問の方が多く使われるようです。「だったっけ」以外にも「だっけ」という形があります。使い方や意味に大きな違いはありませんが、「だったっけ」は、以前知っていたことをはっきりと思い出せないことを強調して確認する場合によく用いられ、「だっけ」は検討がつかないような単なる質問のとき（何だっけ？）にも使います。表現を覚える際には、年号の代わりに、「今日」「明日」「日本人」「休み」などを入れ換えて覚えさせてもよいでしょう。

④トラヒネラってというのはソチミルコの屋根つきの船のことだよ。

T「～って何ですか？」：S「～ってというのは～のことです」といった形で理解しているかを確認します。覚える際には、固有名詞を学習者の興味・関心があるものと入れ換えて覚えさせてもよいでしょう。メキシコシティとソチミルコの位置や、トラヒネラに関する資料を準備しておくと便利です。

◆表現練習

I. 出身地と出身地の情報を伝えましょう。

ハウステンボス（佐世保）、五稜郭（函館）、兼六園（石川）の画像などを用意します。③では、学生同士がスマホなどで実際に町の画像を見せ合うといいでしょう。会話に出てくる音変化、文末イントネーションにも気をつけさせてください。

- ・音変化：とこ→ところ 知ってる→知っている 知ってる？（上がり調子で発音します）

II. 観光地の有名なものについて話しましょう。

「んだ／だよ／なのに／たのに」などの終助詞の意味・使い方を整理しておきます。

- ・～んだ＝「旅行する」ということを新しい情報として提示
- ・～だよ＝同意を得る問い



- ・～なのに＝一般的な結果とは違うことへの驚き
 - ・～たのに＝期待していた結果とは違うことに対する残念な気持ち
- 「白い恋人」は北海道の有名なホワイトチョコレートのお土産のことで。

Ⅲ. ことばの意味を説明しましょう。

③がすぐに思いつかないときのために、いくつか言葉を準備しておくといいです。

例) コンビニ＝コンビニエンスストア（の略）

宅配便＝荷物をうちからうちへ運ぶサービス

ヒトカラ＝一人でカラオケボックスに行って歌う など

Ⅳ. クラスメートに確認しましょう。イントネーションに気をつけましょう。

◇「～だったっけ？」と「～だったっけ。」の練習のイントネーション（「Pick Up」参照）

◇③は入れ換える言葉が多いので、あらかじめストーリーと入れる言葉を考えて、あるいはメモしてから練習してもいいでしょう。

◆文法

1. スピーチレベルシフト

Section 1 のポイントになります。一般的には世代や立場が同じ相手との会話で起こります。相手が目上の人や年齢が上の人相手の場合は、距離が近くなっても、丁寧体から普通体へのシフトは稀で、文末まではっきり言わず省略するなどのストラテジーが使われることがあるようです。「会話」のどの文で変化したか、確認させるといいでしょう。この「会話」の場合、トニーがみどりの出身地のことを知っていることがわかったことがきっかけです。またシフトはみどりの台詞から始まっています。

2. 普通体／丁寧体 よね。

確認するときによく使いますが、使用者は肯定的な返事を期待しています。「ね」は上がり調子になります。

3. 「い」の脱落

どんなときに「い」がなくなるのか、板書して確認するとわかりやすいです（例 食べている）。ここでは普通体を用いるカジュアルな会話での例ですが、丁寧体の「知っています」も「知ってます」と使われることも多いです。後者は前者より丁寧度が下がります。

4. 受身：中立の受身

初級後半で学習する受身形の復習です。受身にはいろいろな使い方がありますが、観光地ガイドなどでよく使われる「中立の受身」に焦点を当てて練習します。それぞれの動詞の受身形と構文、使い方を確認してください。

5. Nって

「～というのは」「～は」を用いた文を「～って」を用いた文に変換させて、学生の理解を確認します。

例) 「お酒**というの**は、お米から作られているんだよね。」→「お酒**って**、お米から作られてい



るんだよね。」

6. 普通体／丁寧体 よ。

相手が知らない情報を提供する場合と、相手への念押しをする場合では文末イントネーションが異なりますので、発音させて確認させてください。

7. (N1は) (N2)として 例) 観光地として、とても人気があるんだ。

下のような空欄に入る表現を考える簡単な例文作りをさせて、確認するといいでしょう。

例) (私) は (国費留学生) として、(東京大学で学んでいる)。

◆文法練習

I. 【中立の受身】

学生に「会話例」を読ませて、意味と練習のやり方を確認します。そのあとで、問題1～3では以下の流れで練習を進めます。

- 1) 正しい受身形を入れて文を完成させる
- 2) 受身形が正しいか確認する
- 3) 文の意味を確認する
- 4) 完成した文をもとに、「会話例」に倣ってペアで会話練習

問題4は、問題1～3を活用して自分自身の国や町について話しますが、難しい場合はメモを見ながらでも構いません。画像などがあると役に立ち、真正性の高い活動ができます。「書きましよう」でも同様の課題があるので、宿題にしてもよいでしょう。

II. 【よね】

人名はクラスメートの名前にすると参加度が高まり、クラスが活性化します。イントネーションは「よ」で下がって「ね」で上がる、ということに注意して練習させましょう。(「文法」参照) デパ地下はデパートの地下にある食品フロアのことです。

III. 【として】

自分になりたい職業の日本語表現を学ぶチャンスです。テキストに出ている表現以外の職業は、学生自身に調べさせたり、教師が提示したりして覚えさせてください。ハリウッドスターはハリウッドの俳優・女優のこと、パリコレはパリで開かれるファッションブランドの新作発表会「パリ・コレクション」のことです。

◆タスク

【話しましょう】

ペアになって、①から④を含んだ自己紹介をさせます。あらかじめ言いたいことをメモさせておいても構いません。同じ内容でも回を重ねると話し方が改善されることが多いので、相手を2回以上変えることをお勧めします。また、クラスメートの自己紹介を聞くときは、相手の情報をメモすることに集中すると会話の流れが途切れるので、会話が終わった後に覚えている内容をメモする程度にさせてください。母国語のメモでも構いません。状況が許せば、日本人



を招いて活動すると、母語話者の自己紹介も観察でき、真正性の高い活動ができます。スピーチスタイルに関しては、初対面ということで丁寧体を通してもいいですし、「会話」のように途中から普通体に移行しても大丈夫です。「役に立つ言葉」は、国や町の紹介の役に立つ言葉なので、必要があれば活用させるとよいでしょう。

ペアの活動の後で、何組かに以下のような質問をします。そして、紹介された人物に正しい情報だったかどうかを確認するとよいでしょう。

例) T「だれと話しましたか？」 - S「～さんです。」

T「～さんの町について教えてください。」 - S「～さんの町は～」

*T=教師、S=学生

また、クラス全体に対しても、上手に説明できたか、相手の説明が理解できたか、回を重ねるごとに自分の話し方が改善したかなどを確認してみてください。

【書きましよう】

文法練習Ⅰの問題4で行ったことを書かせます。

【読みましよう】

LINEなどの通信アプリでのやりとりを用いた読み取り問題です。メッセージに出てくる、観光地の画像などがあるとイメージがつかみやすいです。読む際に、この Section の学習項目（表現や文法）をチェックさせるとよいでしょう。

◆聞き取り練習

ここではキーワードを聞き取る練習をします。全体を正確に聞き取るというより、重要なキーワードを聞き取り、全体をおおまかに把握する練習です。音声には指示文が入っていないので、音声を流す前に、教師が読み上げて何をするか確認します。

時間があれば、練習のあとで、それぞれのテーマについて教師がコメントしたり、関連した話題について質問をして、学生に発話させたりすると、自然なコミュニケーションの練習になります。

I. 会話を聞いてキーワードを書き取る問題ですが、「ケンブリッジ」は撥音「ン」、促音「ッ」、母語によっては濁音「ブ」「ジ」が聞き取れていること、カタカナで正しく表記できているかに気をつけさせます。ひろしの出身地の有名なものが、一文の中に続けて出てきます。ケンブリッジ大学や鎌倉の寺、大仏などの視覚資料があると説明の際に便利です。会話の「どこだったっけ。」は自問で、「あ、鎌倉だったっけ？」は質問のイントネーションになっています。

II. フランスの有名なものに関してキーワードを聞き取る問題です。音声を聞く前に、テキストに提示された語彙を読ませておきます。フランスで有名なものとしてある程度意味を予測できるものもありますが、会話の中に出てこないものもあり、予測しながら聞く練習になります。ツール・ド・フランス、闘牛、ジビエなども視覚資料があると説明が簡単です。「牛



を追いかける祭り」はスペイン北部のパンプローナで3月に開催されるサン・フェルミンの祭りで行われます。

Ⅲ. 大阪に関するキーワードを聞き取る問題です。テキストの空所にメモを書く形式になっています。音声を聞く前に、テキストに書いてある部分をよく見せておくと、解答しやすくなります。「こなもん」は初めて聞く学生が多いと思われませんが、聞き取れたように書かせてください。最後の「お金」は、音声の中に単語がそのまま出ている形ではなく、トーニョの台詞から考えて書く必要がありますが、情報をかみ砕く、言い換えるなどの練習になります。





Section2 : 正式な場面で印象に残る自己紹介ができる

◆チャレンジ

- ◇正式な場面を想定し、丁寧な形で自己紹介をさせます。敬語を使ったかを確認します。
- ◇例①②の敬語の誤りを考えさせて、正しい敬語表現を確認してください。この Section では、丁寧な自己紹介の方法について学習することを確認します。

◆会話

場面：大学の歓迎会 スピーチスタイル：丁寧体 活動：自己紹介

登場人物：トーン（ベトナム出身） 太田先生（東京出身）

相手が同年代でも、初対面や正式な場面では丁寧体が使われます。ここでは、敬語の使用を中心に正式な場面での自己紹介の表現を学びます。大学の歓迎会で、ベトナム人留学生トーンが皆の前に立って自己紹介をしている場面です。その後、トーンが歓迎会のパーティーで、ゼミの太田先生に挨拶をします。初対面や正式な場面で、目上の人物との会話、目上の第三者についての話などの全てにおいて、敬語が用いられています。太田先生はトーンに敬語は用いていませんが、丁寧体で話しています。場面は二つに分かれているので、別々に扱うこともできます。

◆Pick Up

①正式な自己紹介

一般的な正式な自己紹介を学びます。モデルに倣って、ペアで自己紹介をさせて確認してください。

②日本語を始めたきっかけは、日本の音楽が好きになったことです。

学生に日本語を始めたきっかけを聞いてみてください。教師が日本語教師を始めたきっかけを話してみるのもいいと思います。学生に自分が日本語の勉強を始めたきっかけを考えさせておくと、表現練習Ⅲをスムーズに進めることができます。

③私の長所は好奇心旺盛なところで、短所は飽きっぽいところです。

自分自身の長所と短所を考えさせておくと、表現練習Ⅰをスムーズに進めることができます。

④日本にいる間にたくさんを経験したいと思っています。

実際にやりたいことを Q&A で答えさせておくと表現練習Ⅱをスムーズに進めることができます。

◆表現練習

I. 性格の長所と短所

「性格を表す言葉」の中に使いたい言葉がないときは、学生自身に調べさせてください。プラ



スイメージとマイナスイメージ、そのどちらでもない言葉があるので、区別して使えるように気をつけさせるとよいでしょう。時間に余裕があれば、どんな性格の友人、仕事のパートナー、恋人がいいか、あるいは嫌かなどについて話し合うとクラス活動が活性化します。

II. 日本でやりたいこと

ペアで練習したあと、ペア以外の学生と情報を共有すると、よりコミュニケーションがとれます。

例) A「Bさんは日本にいる間に日本料理を覚えたいと思っているそうです。」

C「私もです。Aさんは何を覚えたいんですか？」

III. きっかけ

IIと同様に、ペアで練習したあとで他の学生と情報を共有すると、さらに学習効果を上げることができます。

IV. 正式な場面での自己紹介

学生が一人ずつ皆の前に立って自己紹介を行います。時間がない場合は、ペアでも行わせても構いません。

最後に、I～IVで練習した対話内容をクラスで共有することで、新たな情報交換に発展し、クラス全体のコミュニケーションの機会が生まれ、積極的にコミュニケーションをとろうとするクラスになるでしょう。

◆文法

1. 敬語

敬語の概念や形を確認します。特別な動詞は全部覚えさせてください。「いらっしゃる」「なさる」「くださる」のます形にも気をつけるよう注意を促してください。×「いらっしゃります」「なさります」「くださります」

2. 疑問詞 普通体んですか

「～んです」は「～」の部分をつまみ～です／～だからです／詳しく説明すると～というわけなんです」と状況や理由を説明するという機能があります。普通体のうち、「N だ」は「N な」、「な A だ」は「な A な」となります。疑問詞と「～んですか」を使うと、聞き手が詳しく説明してほしいという意味になりますので、前提としてその質問をする情報が前にあると考えられます。その点が単に、「疑問詞+ですか？」と異なっています。

A「夏休み何か予定がありまか」

B「はい、メキシコに行きます」

A「そうですか。メキシコのどこに行くんですか？」(詳しい情報の説明の要求)

B「ソチミルコに行きます。トーニョに会いにいくんです。」(詳しい情報の説明の提示)

3. Vたばかり

「V-たばかり」と「V-たところ」はどちらも「してから時間がたっていない」という意味で使いますが、「V-たばかり」は主観的・心理的な時間の経過を表します。一般的には長い時間



でも、話し手が短いと感じていれば、「V-たばかり」を使うことがあります。

例) ○「10年前に来たばかりです。」 △「10年前に来たところです。」

○「10分前に来たばかり／ところです。」

◆文法練習

I. 【尊敬語・謙譲語】

尊敬語と謙譲語は固定してありますので、他の部分を入れ換えながら、それぞれの形を正確に覚えて、どのように使うかの練習を行います。

II. 【尊敬語】

各自で空欄を埋めさせ、代表者に発表させます。あるいは、全体で考えながら解答を確認しても構いません。

III. 【尊敬語・謙譲語】

最初に全て敬語に直してメモをしてから会話を始める方法もありますが、その場で直接敬語に変えながら会話するとより効果的な練習になります。

IV. 【たばかり】

ひろしの発話に対して、即座に動詞を敬語から普通体に直さなければならないやや難易度が高い練習になります。最後のひろしの台詞はややネガティブな発言になっていますが、ジョークとして捉えてください。これまでの授業では、このあとに自発的に「そんなことないです！」「実はそうなんです。」などと付け加えた学習者もいました。

◆タスク

【話しましょう】

I. 提示された形式を用いて正式な自己紹介をします。印象に残る自己紹介をするために工夫するよう指示してください。全員が全体で行う時間がない場合は、ペアで行わせ、教師は教室を回って、フィードバック（これ以降 FB と表示）してください。

II. この活動を行う際には、スタッフの協力と事前準備が必要になりますので、前もってインタビューの協力が得られるかを確認して計画を立ててください。

実際の指導例を説明します。まず事務スタッフに活動への協力を得て、日時と場所を設定します。学生に前日までに質問を準備させます。その際、「海外での経験」「仕事について」「趣味について」など、一つテーマを決めて5問～8問の質問を考えさせ、インタビュー時間は10分程度と伝えます。質問文は敬語で書かせます。インタビューの前に、クラスでインタビューのシミュレーションを行い、発音等の確認をしておきます。本番のインタビューでは、学生が事務スタッフに対して丁寧に挨拶できるように伝えておくといでしょう。通常インタビューは1対1で行いますが、グループで行うこともできます。インタビュー終了後には、インタビューした内容を教師に敬語を使って伝えたり、簡単なレポートを書いて提出させたり、感想を聞いたりすると、学習効果の高い活動となります。



【読みましょう】

歴史上の人物に関する読み物です。ここでは受身形が多く用いられていますが、「文法」で扱った「中立の受身」以外も出てきます（例）「殺される」「呼ばれる」など。学生に受身表現をチェックさせながら読ませるのも一つの方法です。

◆聞き取り練習

ここではキーワードを聞き取る練習をします。全体を正確に聞き取るというより、重要なキーワードを聞き取り、全体をおおまかに把握する練習です。音声には指示文が入っていないので、音声を流す前に、教師が読み上げて何をするか確認します。I IIともに前もって問題文を読ませます。またIIはメモするのに時間がかかる可能性があるので、学生の様子に注意して進め方を工夫してください。

- I A) からC) まで続けて音声を流してください。音声を聞かなくても名前で国籍がわかる可能性があります。音声を聞いてから解答させるようにしてください。
- II 1 音声の情報の提出順と解答欄の順番が違つてところがあります。⑤の解答を書きこむ際に少し時間がかかると思われるので、学生の様子を見て書く時間を与えてください。内容把握問題なので、解答は別冊解答と一字一句同じでなくても同じことを答えていれば正解にしてください。「がんばってください」は、「努力してください」ではなく「Good Luck」の意味で使われています。
- II 2 秘書のモノログから時間と仕事内容を聞き取る問題です。尊敬語が使われているので、尊敬語を聞き取ることも課題です。③は解答では「会議に出る」ですが「会議に出て、プレゼンを見る」「プレゼンを見る」「会議に出席する」でも大丈夫です。「本日」、「ご挨拶」、「ご出席」、「お迎え」と名詞も丁寧な形になっています。